

寺西小学校への出前授業:”黒瀬川と仲良くなるう”についての報告書

広島大学マスタース会員 宗岡洋二郎

マスタース幹事原野先生を通じて“寺西小学校の出前授業のお手伝いをしていただけませんか”との問い合わせが生涯学習課よりあり、私の好きな川魚捕りが中心の授業でもあったので、喜んで引き受けることにした。今年で3回目の授業である。

当日(9月1日)8時30分に小学校に到着し、グラウンドで児童(4年生、172名)、先生方や地域の方々、原野先生との顔合わせをしたのち、近くの黒瀬川に行き、そこで魚やその他の水生生物の捕り方、その際の注意事項などを話しをして、9時過ぎから約1時間余り捕獲観察調査を行った。私は大きなナマズやコイを捕って子供達に自慢したく、一人で下流の方に行き魚を捜したが、今年はナマズは1匹も発見できず、45cmぐらいのコイをやっと捕まえて、子供達の活動している場所に戻った。しかし、そのころにはもはや活動は終わりに近く、子供達への指導助言があまりできなかったことをあとで反省した次第。このあと、川の傍の広場に集合し、地域の方々からのジュースなどの冷たい飲み物のサービスを受けた。

小学校に帰って少し休み、11時頃から講堂に集まって、まず寺西女性会会長の黒瀬川水質検査活動その他の環境保護活動について講義を受けた。最後に、私が、市内の川の魚の種類やホタルの生態に加えて、魚の生理的体色変化とホタルの発光に関する神経の役割などの話をしたのち、2人の子供に手伝ってもらって、ホタルの試験管内発光実験を行って、授業を終わりにした。毎年、数回は市内のあちこちの小学校や集会所で似たような出前授業を行っているが、その度に、地域の方々熱心にサポートして下さることは感激し、頭の下がる思いがしている。今回も里づくり推進協議会会長を中心とした地域の方々、川土手の草刈り、危険のないように川に下る道の整備、活動が終わった後の冷たい飲み物の用意などなど、数々のサポートをして下さり、ほんとうにありがたかった。

私が尊敬しているある生物科学関係の研究所の所長いわく“私は研究員を採用するときには、その人の知識よりもセンスを重視している”。実際、センスというものは、一朝一夕には身に着くものではない。センスを身につけるためには、子供のころの仲間とつるんでの自由で、自主的で、活動的な遊びが一番大切だと、私は思っている。しかし、我々の子供の頃と異なり、現在の社会状況では、子供達だけの自由な遊びには危険が満ちている。それ故、地域の人たちのサポートや監視が必要となってくる。子供達の遊びの自由さを損なわない程度にこれをやる必要がある。広大マスタースも地域の人たちの、このような活動を、もっとお手伝いすべきであろう。

校長先生や教職員の皆様、特に運転免許を持たない私のために我が家まで送り迎えして下さった片山教頭先生に御礼を述べて報告書を終わりにしたい。おかげさまで、子供達と楽しいひと時を過ごすことができた。

